

監査報告書

令和 8年 2月24日

施設部長 様

監査チーム

監査長 氏名 伊藤孝夫



主任監査員 氏名 渋谷英之



橋処理センターの監査について次のとおり報告いたします。

記

1 実施結果

監査実施日：令和7年10月1日、2日、3日、6日

今回の監査は、橋処理センターのEMSが適切に構築及び運用されているかを確認するための新規監査である。

従って、監査対象は、全部門（EMS責任者、事務局、内部監査チーム、管理係、技術係、整備係、操作第1係、操作第2係、操作第3係、操作第4係、適正搬入等管理業務受託者）について実施し、監査の結果、適合と判断した。

また、監査による指摘事項の件数は以下のとおり。

ストロングポイント	1件
改善の機会	2件
改善指摘事項 カテゴリーB	3件
改善指摘事項 カテゴリーA	0件

なお、指摘事項の詳細は別添の「監査実施結果通知書（監査 FM008）」を参照

2 監査所見（改善提案等を含む）

(1) 運用面について

橋処理センターは、昨年度から本格稼働し、EMSの運用は今年度からとなり、EMS監査は組織として初めての監査であった。

また、焼却炉の運転監視は職員が実施し、搬入に係る業務については民間委託にて実施している。EMSの運用については双方で実施しているが、必要に応じて共有や連携がなされていた。

そのような中で、ストロングポイントにも挙げたように内部監査の監査資料について電子化による紙使用量の削減や会議の効率化を図っていることや監査対象部

※ 主任監査員は、監査結果及び監査チームでは正対応の検証結果等を反映した報告書を作成し、監査長へ報告する。

監査長 → 施設部長 → 評価委員会

(5年保存)

門の選定について中長期的な計画を作成しており、内部監査の有効性を高めるための取組を行っていた。

今後は、このような取組が他部門や他施設へ展開されることが望まれる。

(2) 改善提案について

今回の監査における指摘は改善が図られているが、監査指摘となった不適合の原因のほとんどが要領書をはじめとする手順の理解不足や認識不足であった。

養成教育における要領書がプロセスフローや環境影響シート作成等の実務作業に対応できていない状況であったが、是正対応では、理解や認識不足解消のため要領書の再教育が実施されていた。

今後もシステム全体の運用状況の確認や把握は、事務局が主体となることが考えられるため、養成教育の実施内容や方法の検討についても議論していただき、事務局長をはじめ事務局員の入れ替わりがあった際に、システム運用が組織として継続できる体制づくりが望まれる。

(3) 今後の取組みについて

今年度はプロセスフローや環境影響シート、環境法令、順守評価等の基礎的な内容を中心に監査を実施した。次年度以降については、今年度から設定した電力使用量の削減に関する目的について実施計画の設定や行動内容等を精査し、管理かつ追跡可能な指標を設定することで、より効果的な取組が継続されることを期待する。

3 是正処置

(1) 是正処置記録提出日：令和 7年10月27日

EMS 監査の指摘に対応した是正処置記録及び改善の機会対応記録が全て提出された。

(2) 是正対応確認日：令和 7年12月18日

是正処置記録及び改善の機会対応記録についての確認を監査チームにて実施し、指摘に基づく対応が全て完了していることを確認した。

(3) そ の 他：なし

以上

※ 主任監査員は、監査結果及び監査チームでは是正対応の検証結果等を反映した報告書を作成し、監査長へ報告する。

監査長 → 施設部長 → 評価委員会

(5年保存)